



MIYAKO  
HIGH SCHOOL 2024

常磐会総会  
2024.9.8

敬創業 校訓  
愛造和 訓



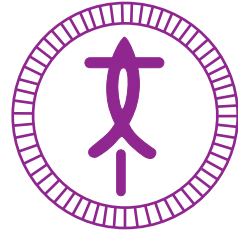
# Contents

- 01 | 校歌（高女・高校）
- 02 | 常磐会会長挨拶
- 03 | 京都高等学校校長挨拶
- 04 | 実行委員長挨拶
- 05 | 記念事業
- 06 | 常磐会総会イベント実績
- 07 | 常磐会会則
- 08 | 歴代会長・校長
- 09 | 常磐会本部役員名簿
- 10 | 職員一覧
- 11 | 令和5年度 進路状況
- 12 | 部活動活動状況
- 13 | 定時制職員一覧・近況報告
- 14 | 恩師からのおたより
- 19 | 卒業生からのおたより
- 24 | 思い出アルバム
- 30 | 協力回生のつどい
- 32 | 協賛広告 -カテゴリー分類-
- 77 | 索引
- 81 | 実行委員会組織図
- 82 | 編集後記





京都高等女学校校歌



古鏡を表す銀台に七宝で隸書の「京女」を打ち出す。京女を松葉になぞらえ、「常磐」の意味を象徴している。

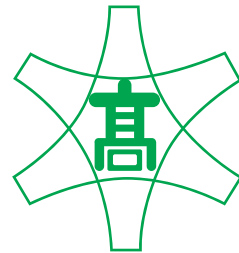


作詞 小川直熙  
作曲 新清次郎

一、京都を名に負う 学の窓に  
常磐の契りを 結べる友よ  
みくにの前途の 運命を擔ふ  
母こそわれらぞ 使命は重し  
雅に優しく かざりをいとひ  
まごころこめつ、いそしみつとめ  
四年の教訓を心に秘めて  
母校のほまれを伝へむ永遠に  
みやこ みやこ  
われらの みやこ

二、英彦の高嶺のごごしき坂を  
書籍よむわれの 訓と仰ぎ  
周防の大灘 たたふる水の  
清きを貞操の 鏡とあがめ  
からだをきたへて 皇国につくし  
平和の使と 雄々しく立たむ  
かくてぞひろがる 母校の誉  
いざ声そろえて たたえむその名  
みやこ みやこ  
われらの みやこ

京都高等学校校歌



「京」の字を表す構図の中心に「高」の文字を白く浮き上がらせたもの。



福井直秋 作曲  
島田芳文 作詞

一、風薫る 若き世紀の 朝ぼらけ  
揺がぬ姿 英彦山  
学びの窓に 仰ぎ見て  
ここに誓いし 若人われら  
文化の京都 その名もゆかし  
ああ躍進の わが母校

二、水清き 尽きぬ流れの 今川の  
たゆまず注ぐ 周防灘  
真理の深さ 究めつつ  
ここに競わん われらが腕  
希望は冴えて 聖火は燃ゆる  
ああ新興の 意気昂し

三、天地の 恵み豊かに 野に充ちて  
夕陽に映ゆる 平尾台  
聞け遙かなる 自治の鐘  
ここに築かん 理想の庭を  
友愛清く 華吹き乱る  
ああ青春の この三歳

四、爽やかに 若き眸の 眉あげて  
見よ美わしの 常磐木は  
わが学び舎の 誇りなり  
ここに創らん われらが歴史  
校風永遠に 輝きわたる  
ああ栄光の わが母校

ごあいさつ



常磐会会長

和田雄二

(高校31回生)

常磐会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

今年も常磐会総会の季節がやってまいりましたが、まずは、この1年間を大過なく務めることが出来ましたのも、会員の皆様方のご協力の賜物と心よりお礼申し上げます。今後、常磐会の「常磐」が意味する「永久不変」の歴史と伝統を引き継ぎ、熟慮断行の精神で臨んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年5月に新型コロナウイルス感染症が感染法上の5類に移行され、いよいよ世の中はアフターコロナへ動き始めました。常磐会総会事業におきましても、昨年度は4年ぶりにすべての事業を通常通りのスケジュールで実施することができ

ました。プランクを乗り越えて頑張っていたいただきました昨年度実行委員会の皆様、お疲れさまでした。

本年度の総会実行委員会は、平成4年卒業の高校44回生・定時31回生、平成17年卒業の高校57回生、平成29年卒業の高校69回生の皆様で、44回生豊瀬敦実行委員長を中心に、着実に準備を進めてこられました。また44回生の皆様には、13年前にも我々31回生とともに当番回生で頑張っていたいただきましたが、今年度44回生の皆様が最後の当番を迎えられるにあたり、時の流れを感じるとともに、立派に成長された姿を見て感慨深いものがあります。連綿と続く常磐会の歴史の流れを、身をもって感じていきます。世の中は、まだまだコロナ禍からの回復道半ばであり、実行委員会活動も、ある意味手

探りの状態であったらうと思えます。皆様のご苦労とご努力に敬意を表し、心より感謝申し上げます。

また、本年度総会の開催にあたり、コロナ禍が過ぎたとはいえ、円安、物価高騰などの不安定な経済状況が続く中にもかかわらず、快くご協賛いただきました皆様に対しまして心よりお礼申し上げます。皆様のご厚意は、総会事業の運営、現役京都高校生への援助にと、大切に使用させていただきます。誠にありがとうございました。

さて一昨年度より、「令和6年版常磐会会員名簿」の作成作業に取り掛かっております。5年に一度の発行であり、本年12月の発行に向けて作業を進めているところでありますが、会員名簿は同級生をつなげる根幹を成すものであり、名簿の発行は常磐会の重要な事業の一つであります。名簿修正等の締め切りは10月下旬までとなっておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。また、常磐会公式ホームページからも名簿修正等ができるようになっておりますのでご利用ください。

最後になります。母校京都高校のさらなる躍進と、同窓会常磐会のみずみずの発展、あわせて本年度

常磐会総会の盛会を祈念し、ごあいさつとさせていただきます。



○常磐会公式ホームページURL

<https://dousokai.site/miyako-tokiwakai/>



校長

## 白川英治

本年4月に第37代校長として着任いたしました白川英治と申します。私事ですが、執行前校長の1学年後輩で、本校卒業35回生です。卒業生として、微力ながら母校発展のお役に立ちたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

常磐会の皆様には、平素より本校の教育活動の推進に、多大なるご支援をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

昨年の常磐会総会として久しぶりの懇親会開催に引き続いて、本年度も常磐会総会並びに懇親会が盛大に開催されることに対しまして、心からお慶び申し上げます。本日の総会に向けて公私ともにお忙しい中、準備に取り組んでいただきました。44回生常磐会総会実行委員長の豊瀬敦様をはじめ、実行委員の皆様のご

労苦に深甚なる敬意を表したいと思っております。

本校の職員も校長及び教頭の管理職3名を含め20名が常磐会会員であり、令和8年度を迎える創立110周年に向けて大変心強く感じているところでです。

私は国語科の教諭・主幹教諭として本校に平成17年から10年間勤務させていただき、その後1年間県教育委員会で県全体の教育活動に携わらせていただき、平成28年には全日制の教頭として創立100周年の記念事業に尽力させていただきました。先生方と心をつなげて取り組んだ創立100周年記念事業は、苦勞もありましたが私の生涯の思い出として心に刻まれています。この度7年ぶり3度目の母校勤務となり、私の教員生活の集大成となるよう母

校のために一日一日を大切に過ごしてまいりたいと意を強くしているところです。

さて、本年度は、昨年度に引き続き『地域のみならず世界を舞台に活躍する人材を育成する』をスクーラムミッションに掲げ、教師個々の資質・能力である「教師力」、地域とともに成長するための「連携力」、学校としての組織的指導力である「学校力」の向上を図り、教育活動の充実に努めています。また、定時制におきましても、生徒会の自主的な清掃活動が近隣の方から喜ばれており、学校はもろろん地域の環境整備に貢献してくれています。

ここで、本年3月に卒業した76回生の進路状況についてご報告させていただきます。国公立大学には、京都大学・大阪大学各1名、九州大学・熊本大学・山口大学各8名、九州工業大学9名、大分大学7名、岡山大学・長崎大学各3名、神戸大学・福岡教育大学・鹿児島大学各2名、北九州市立大学29名など115名が現役合格いたしました。このように進路実績におきましては、組織的指導力が実を結び、多くの生徒が希望進路実現を果たしています。

部活動でも立派な成績を残しており、体育部では水泳部が九州大会出場を果たし、バレーボール部・バスケットボール部・野球部・サッカー部・バドミントン部が県大会に出場するという素晴らしい実績を収めました。文化部におきましても、吹奏楽部と放送部が県大会に出場し、今年度は放送部が全国大会出場を果たすなど、知・徳・体のバランスの取れた活動が成果として表れています。

最後になりますが、御会におかれましては、京都奨学会を通じましての奨学金の授与をはじめ、例年援助いただいております京都研修等、大変心強いご支援をいただいておりますことに、教職員一同、心より感謝いたしております。今後とも引き続きご支援とご協力を母校に賜りますようお願い申し上げますとともに、御会の益々のご発展と会員の皆様のご活躍を祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。





実行委員長

豊瀬 敦

(高校44回生)

常磐会との最初の縁でした。

その後、子どもの進学に伴い、PTA活動に従事するようになり、常磐会との接点も増え、私が、京都高校のPTA会長に任命されると同じぐらいに、和田さんが常磐会の会長に就任され、縁とはすごいものだなと感じました。

恥ずかしながら、京都高校のPTA会長として活動する中で、常磐会が京都高校生のための奨学金制度の運営など、母校の発展に寄与する取り組みをおこなっていることを初めて知りました。

今年度は、アフターコロナということもあり、一般企業の方々の中には、協賛金の協力をお断りされる場所も多くありました。

しかし、その一方で、多くの卒業生が繋いできた一般の方々のご縁のおかげで、「頑張っただけ」の激励とともに協賛をいただけたことに、地域に根差した京都高校の縁に心より嬉しさを感じました。人と人との繋がりを大事に地域で100年以上も続く母校に感謝をしつつ、今後も益々、母校が発展を遂げることを祈念いたしまして、実行委員長の挨拶と代えさせていただきます。

ひとつの方向に導くことの難しさも学びました。

難しいながらも、部活動を4年間全うできたのも、京都高校の3年間があったからこそだと思います。

京都の3年間、部活でバレーボールをしている時間以外は、正直、忍耐の時間でした。朝早くから夕方遅くまでの授業は、苦行、そのものだったと記憶しています。

でも、この時間があったからこそ、大学へ進学ができたのかなと感謝もあります。

大学卒業後は、関西方面に配属され、7年間、勤務した後、福祉施設の起業のため、行橋へと戻ってまいりました。

37歳の時に、現常磐会会長の和田さんが実行委員長を務める実行委員会の中当番として参加したのが、

今年度、常磐会総会実行委員長を拝命いたしました、豊瀬敦と申します。本年も、常磐会総会の開催にあたりまして、多くの皆さまより、多大なるご支援を賜り、高校44回生・57回生・69回生、定時制高校31回生を代表いたしましたして、心より厚く御礼申し上げます。

さて、私は高校卒業後、大学進学のため福岡へと移り住み、大学では、今までは違ったスポーツに取り組みたいと考え、アメリカカンファットボール部に入部し、4年間、部活動に明け暮れておりました。部活動をする中で、多くの友人と切磋琢磨し、新しいことに踏み込んでチャレンジしていくことの楽しさを学びました。また、部員が60名近くいる中で、最終学年の時に主将に任命していただき、大勢の考えをまとめて、



# いつも 心の中に微笑みを

福岡県立京都高等学校同窓会  
2024年度常磐会総会記念事業

2024年

9月8日

開場/13:00 開演/14:00

場所 **コスメイト行橋**

行橋市中央1-9-3 TEL 0930-25-2300

入場料 **2,000円**

6月20日よりコスメイト行橋にてチケット販売

**全席自由**

※入場は開場後、  
先着順のご案内  
します。

注 満席の場合は立ち見となる場合がございます。予めご了承ください。  
記念事業の収益金は、在校生の支援等に充てます。  
台風等で中止になった場合は、払い戻しは致しません。

お笑いタレント

# 山田邦子氏講演会

講演  
内容

乳がんの闘病体験や  
現在の活動について、  
ユーモアたっぷりにお話します。  
みなさんが笑って  
幸せになれるような講演です。

山田邦子氏プロフィール

1980年 芸能活動開始。

「オしたちひょうさん族」「やまだかつてないテレビ」などバラエティー番組で人気沸騰。

2007年 乳がんを罹患。その体験から、がん啓発のチャリティー団体「スター混声合唱団」を設立。  
現在、団長として全国各地で活躍中。2022年/2023年「M-1グランプリ」審査員。

チケットのお問い合わせ

**コスメイト行橋 ☎0930-25-2300**

## 常磐会総会イベント実績

1990 (H 2)	講演「ケント・ギルバート」	〈行橋市民会館〉
1991 (H 3)	講演「武田 イク」	〈行橋市民会館〉
1992 (H 4)	講演「橋家 園蔵」	〈行橋市民会館〉
1993 (H 5)	講演「小川 宏」	〈コスメイト行橋〉
1994 (H 6)	講演「ケーシー高峰」	〈京都ホテル〉
1995 (H 7)	講演「井川 良久」	〈京都ホテル〉
1996 (H 8)	「GS チャリティフェスティバル」	〈行橋市民会館〉
1997 (H 9)	劇「銀河鉄道の夜」(真夏座)	〈コスメイト行橋〉
1998 (H 10)	講演「舛添 要一」	〈行橋市民会館〉
1999 (H 11)	講演「クロード・チアリ」	〈京都高校体育館〉
2000 (H 12)	能・狂言「野村 萬斎 他」	〈行橋市民会館〉
2001 (H 13)	講演「桂 文珍」	〈行橋市民会館〉
2002 (H 14)	講演「宮本 隆治」元 NHK アナウンサー	〈行橋市民会館〉
2003 (H 15)	講演「生島 ヒロシ」	〈行橋市民会館〉
2004 (H 16)	講演「倍賞 千恵子」	〈行橋市民会館〉
2005 (H 17)	講演「辻村 寿三郎」	〈行橋市民会館〉
2006 (H 18)	独演会「春風亭 小朝」	〈行橋市民会館〉
2007 (H 19)	「山下 洋輔ニューカルテット」JAZZ コンサート	〈行橋市民会館〉
2008 (H 20)	講演「童門 冬二」	〈行橋市民会館〉
2009 (H 21)	講演「松山 千春」	〈行橋市民会館〉
2010 (H 22)	精華女子高等学校吹奏楽部演奏会	〈行橋市民会館〉
2011 (H 23)	講演「金 美齡」	〈行橋市民会館〉
2012 (H 24)	講演「武田 邦彦」	〈行橋市民会館〉
2013 (H 25)	京都寄席 The Rakugo ! 「円楽独演会」	〈行橋市民会館〉
2014 (H 26)	「桂 文枝」講演会	〈行橋市民会館〉
2015 (H 27)	「鈴木 明子」講演会	〈行橋市民会館〉
2016 (H 28)	「桑田 真澄」講演会	〈行橋市民会館〉
2017 (H 29)	「渡部 陽一」講演会	〈コスメイト行橋〉
2018 (H 30)	「中村 文昭」講演会	〈コスメイト行橋〉
2019 (R 1)	「齋藤 孝」講演会	〈コスメイト行橋〉
2020 (R 2)	欧州街紀行「中川淳一」アンサンブルコンサート	〈コスメイト行橋〉
2021 (R 3)	「堀井 智帆」講演会 ※中止	〈みやこホテル〉
2022 (R 4)	「財前 直見」講演会	〈コスメイト行橋〉
2023 (R 5)	「竹林 洋史」講演会	〈コスメイト行橋〉
2024 (R 6)	「山田 邦子」講演会	〈コスメイト行橋〉



# 常 磐 会 会 則

- 第1条** (名称) 本会は福岡県立京都高等学校常磐会と称え、本部事務局を母校内に置く。
- 第2条** (目的) 本会は母校を中心として会員相互の連絡親睦を深め、併せて各自の知徳の向上発展を図り、母校の名誉の発揚に寄与することを目的とする。
- 第3条** (構成) 本会の会員は通常会員（福岡県立京都高等学校全日制、定時制、福岡県立京都高等女学校及び併置中学校・専攻科の各卒業生）及び特別会員（同校現職員及び旧職員）よりなる。
- 第4条** (事業) 本会は目的を達成するために次の事業を行なう。  
(1) 毎年本校卒業時、新入会員の歓迎をかねて入会式を行なう。  
(2) 会報、会員名簿の発行。  
(3) 母校の教育振興、会員の親睦向上のために必要と認められる行事。  
(4) その他必要と認められる行事。
- 第5条** (機関) 本会本部に次の機関を置く。  
(1) 総 会 総会は本会の最高議決機関であって会員全体で構成し、原則として、毎年8月もしくは9月に開く。また会長が必要と認めるときは臨時にこれを開くことができる。  
(2) 役員会 役員会は総会に次ぐ議決機関であって第7条に定める役員を以て構成する。  
(3) 幹事役員会 幹事役員会は会長の諮問に応じ、必要事項を審議する。幹事役員は会長が委嘱する。  
(4) 事務局 事務局は本会の会務運営上の事務記録を処理し、会計を掌る。
- 第6条** (支部) 都道府県市町村内または職場に本会支部を置くことができる。
- 第7条** (役員) 本会に次の本部役員を置く。
- |             |    |                          |
|-------------|----|--------------------------|
| 会 長         | 1名 | 役員会が推薦し、総会の承認を得る。        |
| 名誉会長        | 1名 | 現職校長                     |
| 副会長         | 2名 | 会長が推薦し、総会の承認を得る。         |
| 名誉副会長       |    | 現職教頭及び現職事務長              |
| 顧 問         |    | 会長が推薦し、役員会の承認を得る。(会長経験者) |
| 名誉顧問        |    | 会長が推薦し、役員会の承認を得る。        |
| 監 査         | 2名 | 会長が推薦し、役員会の承認を得る。        |
| 前年度総会実行委員長  | 1名 | 前年度の総会実行委員長              |
| 当年度総会実行委員長  | 1名 | 当年度の総会実行委員長              |
| 支部長         |    | 各支部より1名                  |
| 回生代表        |    | 各回生より1名                  |
| 前事務局長       | 1名 | 直前事務局長                   |
| 事務局長        | 1名 | 本会会員で現職員                 |
| 事務局次長       | 1名 | 同上                       |
| 学校内幹事(事務局員) |    | 同上                       |
- 第8条** (役員の仕事)
- |             |                                    |
|-------------|------------------------------------|
| 会 長         | 会長は会務を総括し、会合を主宰し、会を代表する。           |
| 副会長         | 副会長は会長を補佐し、会長不在のときはこれを代行する。        |
| 顧 問         | 会長の相談に応じる。                         |
| 監 査         | 本会の会計を監査する。                        |
| 当年度総会実行委員長  | 当年度当番回生を代表し、総会の企画・運営をし、総会誌を発行する。   |
| 支部長         | 支部を統括し、運営する。                       |
| 回生代表        | 当該回生を代表し、回生内の連絡調整を図る。              |
| 事務局長        | 事務局長は本部事務局を統括し、運営する。               |
| 事務局次長       | 事務局次長は事務局長を補佐し、事務局長が不在のときはこれを代行する。 |
| 学校内幹事(事務局員) | 事務を掌り、処理する。                        |
- 第9条** (任期) 役員の仕事は2年とするが留任を妨げない。欠員が生じたときは役員会において選出する。ただし、任期は前任者の残任期間とする。
- 第10条** (会計) 本会の経費は入会金、寄付金、その他の収入を以て充てる。会員は入会金として12,200円を納入することとする。
- 第11条** (会計報告) 本会の会計年度は4月1日より始まり翌年3月末日に終る。会費の収支決算は総会において報告し、承認を得る。
- 第12条** (会則改正) 改正は総会の出席者の過半数の議決を要する。
- 付 則**
- ・この会則は昭和47年8月より実施する。
  - ・昭和60年8月一部改正。
  - ・平成10年8月一部改正。
  - ・平成17年9月一部改正。
  - ・平成9年8月一部改正。
  - ・平成13年9月改正。
  - ・平成25年9月一部改正。

# 歴代会長・校長

## ◎歴代会長

初代	2代	3代	4代	5代	6代	7代	8代	9代	10代	11代	12代	13代	14代
有松 藤代	中尾 夕二	白 櫛 陸子	八 田 三千代	石 田 ハル子	藤 田 春子	柳 田 照子	和 田 秀枝	山 路 英彦	白 井 末利	鍵 山 俊輔	尾 形 知文	若 山 直樹	和 田 雄二
会長 (昭和24年約半年間)	会長 (昭和24年～27年約3年間)	会長 (昭和27年約半年間)	会長 (昭和27年～29年約2年間)	会長 (昭和29年約半年間)	会長 (昭和29年～33年約4年間)	会長 (昭和33年～35年約2年間)	会長 (昭和35年～42年約7年間)	会長 (昭和42年～53年約11年間)	会長 (昭和53年～62年約9年間)	会長 (昭和62年～平成10年約11年間)	会長 (平成10年～17年約7年間)	会長 (平成17年～令和3年約16年間)	会長 (令和3年)

## ◎歴代校長 氏名

(就任年月日)

初代	2代	3代	4代	5代	6代	7代	8代	9代	10代	11代	12代	13代	14代	15代	16代	17代	18代
中川 直亮	大 森 実	合 屋 武 城	小 川 直 熙	松 本 寛 吉	浜 上 宝 作	和 田 熊 彦	荻 原 豊	八 田 静 夫	木 村 利 雄	古 谷 弘	大 堀 孝 生	富 本 市 平	田 頭 喬	米 田 栄 一	林 真 澄	小 袋 是 郎	香 月 晴 美
(大正6年3月28日)	(大正9年3月23日)	(大正10年8月25日)	(大正15年9月27日)	(昭和5年5月22日)	(昭和11年3月31日)	(昭和15年4月30日)	(昭和22年5月20日)	(昭和25年4月1日)	(昭和27年5月19日)	(昭和30年5月8日)	(昭和34年4月6日)	(昭和38年4月17日)	(昭和44年4月1日)	(昭和47年4月1日)	(昭和51年4月1日)	(昭和56年4月1日)	(昭和59年4月1日)

19代	20代	21代	22代	23代	24代	25代	26代	27代	28代	29代	30代	31代	32代	33代	34代	35代	36代	37代
鳥 尾 恒 美	吉 國 岩 一	岡 泰 司	梶 原 辯 二	山 本 隆 生	山 中 英 彦	金 光 克 彦	大 下 一 幸	大 垣 洋 之	龜 田 陽 一	武 吉 恆	中 村 潤	高 須 雅 光	丸 内 毅	田 中 浩 子	木 部 勝 志	土 田 秀 夫	執 行 和 彦	白 川 英 治
(昭和62年4月1日)	(平成元年4月1日)	(平成4年4月1日)	(平成6年4月1日)	(平成9年4月1日)	(平成11年4月1日)	(平成13年4月1日)	(平成14年11月1日)	(平成17年4月1日)	(平成19年4月1日)	(平成21年4月1日)	(平成24年4月1日)	(平成26年4月1日)	(平成27年4月1日)	(平成28年4月1日)	(平成30年4月1日)	(平成31年4月1日)	(令和4年4月1日)	(令和6年4月1日)



# 常 磐 会 本 部 役 員 名 簿

役 職	回 生	氏 名
会 長	高 31	和 田 雄 二
名 譽 会 長	校 長	白 川 英 治
副 会 長	高 35	田 原 康 行
副 会 長	高 39	辛 嶋 智 恵 子
名 譽 副 会 長	教 頭 (全)	新 澤 知 美
名 譽 副 会 長	教 頭 (定)	橋 本 典 和
名 譽 副 会 長	事 務 長	兒 田 由 美 子
顧 問	高 4	白 井 末 利
顧 問	高 5	山 路 英 彦
顧 問	高 8	鍵 山 俊 輔
顧 問	高 15	尾 形 知 文
顧 問	高 22	若 山 直 樹
監 査	高 43	藤 井 昭 裕
監 査	高 39	江 本 庸 時
前年度總會実行委員長	高 43	森 上 誠
本年度總會実行委員長	高 44	豊 瀬 敦
行橋市役所支部長	高 36	稲 田 健 太
回 生 代 表	卒 業 年	氏 名
高女 25 回生代表	S18 年卒	
高女 30 回生代表	S23 年卒	品 川 洋 子
高校 3 回生代表	S26 年卒	廣 松 順 子
高校 4 回生代表	S27 年卒	小 野 秀 明
高校 5 回生代表	S28 年卒	浜 田 哲 郎
高校 6 回生代表	S29 年卒	大 江 国 友
高校 7 回生代表	S30 年卒	
高校 8 回生代表	S31 年卒	伊 藤 繁 隆
高校 9 回生代表	S32 年卒	佐 藤 護 彦
高校 10 回生代表	S33 年卒	塩 塚 誠
高校 11 回生代表	S34 年卒	山 内 公 二
高校 12 回生代表	S35 年卒	角 谷 健 一
高校 13 回生代表	S36 年卒	向 井 啓 司
高校 14 回生代表	S37 年卒	松 下 清 斉
高校 15 回生代表	S38 年卒	豊 守 斉
高校 16 回生代表	S39 年卒	
高校 17 回生代表	S40 年卒	佐 藤 政 治
高校 18 回生代表	S41 年卒	藤 木 巧 一
高校 19 回生代表	S42 年卒	野 本 俊 一
高校 20 回生代表	S43 年卒	豊 瀬 尉 芳
高校 21 回生代表	S44 年卒	有 門 信 芳
高校 22 回生代表	S45 年卒	石 田 慶 三 郎
高校 23 回生代表	S46 年卒	松 本 高 彦
高校 24 回生代表	S47 年卒	古 谷 芳 樹
高校 25 回生代表	S48 年卒	池 田 孝 博
高校 26 回生代表	S49 年卒	
高校 27 回生代表	S50 年卒	内 田 克 彦
高校 28 回生代表	S51 年卒	浦 杉 幸 雄
高校 29 回生代表	S52 年卒	小 野 誠 子
高校 30 回生代表	S53 年卒	森 辰 彦
高校 31 回生代表	S54 年卒	和 田 雄 二
高校 32 回生代表	S55 年卒	中 村 浩 行
高校 33 回生代表	S56 年卒	宗 裕
高校 34 回生代表	S57 年卒	執 行 和 彦
高校 35 回生代表	S58 年卒	田 原 康 行
高校 36 回生代表	S59 年卒	高 城 喜 典
高校 37 回生代表	S60 年卒	大 村 重 彦
高校 38 回生代表	S61 年卒	磯 田 卓 也
高校 39 回生代表	S62 年卒	江 本 庸 時
高校 40 回生代表	S63 年卒	渡 辺 克 紀

回 生 代 表	卒 業 年	氏 名
高校 41 回生代表	H 1 年卒	山 中 あゆみ
高校 42 回生代表	H 2 年卒	原 田 幸 一
高校 43 回生代表	H 3 年卒	森 上 誠 敦
高校 44 回生代表	H 4 年卒	豊 瀬 有 恒
高校 45 回生代表	H 5 年卒	炭 本 正 典
高校 46 回生代表	H 6 年卒	土 肥 浩 平
高校 47 回生代表	H 7 年卒	篠 田 充
高校 48 回生代表	H 8 年卒	中 野 和 也
高校 49 回生代表	H 9 年卒	村 上 敏 徳
高校 50 回生代表	H10 年卒	毛 利 剛 史
高校 51 回生代表	H11 年卒	村 上 樹
高校 52 回生代表	H12 年卒	藤 井 篤 志
高校 53 回生代表	H13 年卒	右 田 篤 志
高校 54 回生代表	H14 年卒	宮 下 直 行
高校 55 回生代表	H15 年卒	稲 田 清 貴 文
高校 56 回生代表	H16 年卒	友 二 見 真 紀 人
高校 57 回生代表	H17 年卒	細 川 早 斗
高校 58 回生代表	H18 年卒	照 本 旭 生
高校 59 回生代表	H19 年卒	馬 場 亮 介
高校 60 回生代表	H20 年卒	有 久 将 司
高校 61 回生代表	H21 年卒	日 隈 優 介
高校 62 回生代表	H22 年卒	前 田 惠 佑
高校 63 回生代表	H23 年卒	鱒 淵 聡 志
高校 64 回生代表	H24 年卒	隅 田 拓 磨
高校 65 回生代表	H25 年卒	定 野 弘 希
高校 66 回生代表	H26 年卒	浜 里 俊 吾
高校 67 回生代表	H27 年卒	白 川 魁 星
高校 68 回生代表	H28 年卒	久 保 奨 己
高校 69 回生代表	H29 年卒	浅 富 義 徳
高校 70 回生代表	H30 年卒	末 松 憲 児
高校 71 回生代表	H31 年卒	檜 本 光 太 郎
高校 72 回生代表	R 2 年卒	村 田 明 弘
高校 73 回生代表	R 3 年卒	高 橋 未 朋
高校 74 回生代表	R 4 年卒	前 橋 咲 太
高校 75 回生代表	R 5 年卒	片 桐 佑 一 郎
高校 76 回生代表	R 6 年卒	中 山 克 己
定時制高校 2 回生代表	S38 年卒	大 平 英 明
定時制高校 6 回生代表	S42 年卒	石 川 國 孝 度
定時制高校 19 回生代表	S55 年卒	坪 根 能 度
定時制高校 20 回生代表	S56 年卒	
事 務 局	卒 業 年	氏 名
校 長	高 35	白 川 英 治
事 務 局 長	高 37	玉 江 俊 樹
事 務 局 次 長	高 31	北 川 敏 行
学 校 内 幹 事	高 31	岡 崎 邦 明
学 校 内 幹 事	高 31	森 林 雅 浩
学 校 内 幹 事	高 32	山 田 な お み
学 校 内 幹 事	高 45	炭 本 有 恒
学 校 内 幹 事	高 47	田 中 久 美 子
学 校 内 幹 事	高 49	石 松 久 美
学 校 内 幹 事	高 54	椋 本 俊 輔
学 校 内 幹 事	高 55	中 島 幸 宏
学 校 内 幹 事	高 56	上 森 史
学 校 内 幹 事	高 58	細 川 早 斗
学 校 内 幹 事	高 58	山 野 彰 子
学 校 内 幹 事	高 60	村 岡 匠 佳
学 校 内 幹 事	高 61	甲 木 佑 香
学 校 内 幹 事	高 63	齊 藤 友 香

# 職 員 一 覧

職 名	氏 名	担当教科	職 名	氏 名	担当教科
校 長	白 川 英 治		教 諭	大 賀 樹	理科（生物）
教 頭	新 澤 知 美		教 諭	高 島 麻 緒	国 語
参事兼事務長	兒 田 由美子		教 諭	藤 井 千 怜	地歴（日本史）
主幹教諭	玉 江 俊 樹	保 健 体 育	教 諭	稲 積 由 唯	外国語（英語）
主幹教諭	炭 本 有 恒	国 語	養護教諭	平 井 知 子	
主幹教諭	石 松 久 美	公 民	講師（常）	中 島 幸 宏	地歴（世界史）
教 諭	南 波 和 昭	理科（化学）	講師（常）	堀 田 寛 将	保 健 体 育
教 諭	松 崎 正	公 民	講師（常）	河 野 良 太	数 学
教 諭	北 川 敏 行	理科（化学）	講師（常）	梶 原 蓮太郎	数 学
教 諭	森 林 雅 浩	国 語	実習助手(期)	藤 崎 史	理 科
教 諭	岡 崎 邦 明	地歴（地理）	講師（非）	岡 田 清 隆	芸術（美術）
教 諭	坂 井 道 孝	数 学	講師（非）	松 田 ひとみ	芸術（音楽）
教 諭	伊 藤 睦 浩	外国語（英語）	講師（非）	桃 井 正 彦	公 民
教 諭	古 田 成 寿	理科（物理）	講師（非）	三 田 美智代	家 庭
教 諭	井無田 雅 博	数 学	講師（非）	定 由 栄 子	外国語（英語）
教 諭	増 田 友佳子	国 語	講師（非）	大 森 アユミ	芸術（書道）
教 諭	黄 原 三 佳	外国語（英語）	講師（非）	進 真 紀	外国語（英語）
教 諭	横 山 笛 美	外国語（英語）	講師（非）	田 中 香 織	外国語（英語）
教 諭	後 藤 誠 嗣	数 学	講師（非）	山 本 智 美	情報・家庭
教 諭	田 中 久美子	理科（生物）	講師（非）	厩 谷 みゆき	国 語
教 諭	在 津 元 敬	保 健 体 育	講師（非）	上 森 誠 二	国 語
教 諭	清 水 裕 子	数 学	A L T	Chen Pin Sun	
教 諭	椋 本 俊 輔	理科（物理）	<b>事務職員</b>		
教 諭	中 田 健一郎	数 学	参事補佐兼事務次長	田 口 光 里	
教 諭	山 野 彰 子	地歴（地理）	主任主事	村 岡 匠	
教 諭	細 川 早 斗	国 語	主 事	木 良 望	
教 諭	南 川 友 来	外国語（英語）	主事(期限付)	福 山 清 佳	
教 諭	福 本 康 宏	保 健 体 育	事務主査(司書)	土 橋 奈緒美	
教 諭	片 村 新太郎	外国語（英語）	主任技能員	森 美 子	
教 諭	甲 木 佑 佳	理科（化学）	主任技能員	村 上 健 治	
教 諭	山 本 裕太郎	保 健 体 育	技 能 員	宮 原 優 一	
教 諭	齐 藤 友 香	地歴（世界史）	主 事 補	田 中 直 子	
教 諭	柴 田 克 哉	数 学	P T A	山 田 なおみ	
教 諭	入 江 香 織	数 学	P T A	小 山 明 菜	



# 令和5年度 進路状況

## 進路指導主事 炭本 有恒

大学入学共通テストも四年目になり、大きな変更も出てきました。出題傾向や、学力の評価のポイントの変化についてはこれまでいわれてきました。さらに、受験科目として「情報」が加わり、国語や地歴・公民の出題内容にも変更があります。この背景には、知識や技能だけでなく、多様性への理解や主体性、課題発見・解決能力を身につけることが重要であるという学力観があります。このような力を身につけることが、変化の激しい時代を生き抜くために必要なことと考えられており、教育の場面にも大きく影響しています。入試の形態においても、一般選抜以外の学校推薦型選抜や総合型選抜などの定員が増加しており、将来への展望や、社会貢献の意志をもち、明確な「志望動機」を自分の言葉で語る力を持っている人にチャンスが広がっています。

自らが生きる社会や、自分自身の生き方について主体的に考え、取り組む姿勢が問われる時代です。さまざまなことに関心をもち、何ができるか、何ができるようにしたいか、

令和5年度 国公立大学合格者数（既卒者を含む）

設立	大学名	学部	人数	設立	大学名	学部	人数	設立	大学名	学部	人数		
国立	千葉大学	看護学部	1	国立	佐賀大学	経済学部	1	公立	秋田県立大学	システム科学技術学部	1		
	京都大学	理学部	2			理工学部	1			富山県立大学	情報工学部	1	
	大阪大学	外国語学部	1			長崎大学	医学部		1		岡山県立大学	情報工学部	1
	神戸大学	海洋政策科学部	1			教育学部	1			新見公立大学	健康科学部	2	
		国際人間科学部	1			経済学部	1			周南公立大学	情報科学部	1	
	岡山大学	工学部	1			熊本大学	医学部		2		山口東京理科大学*	薬学部	3
		法学部	1			薬学部	1				工学部	2	
		文学部	1			教育学部	2			下関市立大学	データサイエンス学部	2	
	広島大学	医学部	1			工学部	1				経済学部	4	
	山口大学	経済学部	1			理学部	1			北九州市立大学	外国語学部	6	
		医学部	2			文学部	1				文学部	5	
		工学部	5			法学部	1				法学部	6	
	九州大学	薬学部	1			大分大学	教育学部		2			経済学部	6
		経済学部	3			理工学部	5				国際環境工学部	5	
		工学部	4			宮崎大学	教育学部		1			地域創生学群	1
九州工業大学	工学部	6		鹿児島大学	水産学部	1		九州歯科大学	歯学部	1			
	情報工学部	3		法学部	1		福岡県立大学	看護学部	4				
福岡教育大学	教育学部	2						人間社会学部	4				
								長崎県立大学	情報システム学部	2			

\*正式名称：山陽小野田市立山口東京理科大学

を考えて進路選択に前向きに取り組んでほしいと考えています。

保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。お子様の希望進路実現のため、職員一同全力でサポートしてまいります。最後に、日頃より本校教育におかれましては、誠にありがとうございます。ご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。引き続きご支援いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

令和5年度 私立大学合格者数（既卒者を含む）

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
国際医療福祉大学	3	佛教大学	2	筑紫女学園大学	1
青山学院大学	1	立命館大学	5	中村学園大学	6
桜美林大学	4	近畿大学	14	西日本工業大学	44
慶応義塾大学	1	関西学院大学	3	福岡大学	72
芝浦工業大学	1	岡山理科大学	1	福岡工業大学	38
拓殖大学	1	広島国際大学	3	福岡歯科大学	1
中央大学	1	梅光学院大学	6	福岡女学院大学	1
帝京大学	1	徳島文理大学	1	九州栄養福祉大学	6
東海大学	2	九州共立大学	1	日本赤十字九州国際看護大学	2
東京家政大学	1	九州国際大学	6	聖マリア看護学院大学	1
東京農業大学	1	九州産業大学	30	福岡女学院看護大学	1
日本大学	1	九州女子大学	12	純真学園大学	3
早稲田大学	1	久留米大学	2	福岡国際医療福祉大学	4
麻布大学	1	産業医科大学	8	令和健康科学大学	1
関東学院大学	8	西南学院大学	12	活水女子大学	2
横浜薬科大学	1	西南女学院大学	15	崇城大学	2
同志社大学	2	第一薬科大学	6	熊本保健科学大学	1

上級学校合格状況・就職状況

令和5年度	現役	既卒	合計
国立大学	58	5	63
公立大学	57	2	59
私立大学	335	13	348
文科省管轄外	4	0	4
公立短大	0	0	0
私立短大	3	0	3
各種学校	26	0	26
事務	0	1	1
営業	0	2	2
技能			
公務員			
合計	0	2	3

# 部活動活動状況

令和6年度 部活動加入

全日制 令和6年5月1日現在

文化部	男子	女子	計
1 華道	0	5	5
2 琴曲	0	6	6
3 茶道	0	5	5
4 写真	3	10	13
5 囲碁・将棋	6	1	7
6 書道	2	9	11
7 放送	2	6	8
8 煎茶	0	11	11
9 文芸	2	1	3
10 美術	2	13	15
11 吹奏楽	12	20	32
12 料理	0	42	42
13 英語(E S S)	4	4	8
14 S G	0	7	7
15 科学同好会	1	1	2

運動部	男子	女子	計
1 バレーボール	20	12	32
2 バスケットボール	39	21	60
3 野球	24	6	30
4 テニス	12	2	14
5 陸上	6	3	9
6 柔道	4	4	8
7 剣道	5	3	8
8 サッカー	25	3	28
9 バドミントン	28	22	50
10 バトン	0	13	13
11 ダンス	0	25	25
12 水泳	5	0	5
13 卓球	5	4	9
14 空手道	0	0	0

	男子	女子	合計
部員数	207	259	466
生徒数	339	332	671
加入率(%)	61.1	78.0	69.4

主な戦績 ※令和5年4月～令和6年3月までの期間での県大会以上

## 体育部

バレーボール部	○福岡県高校バレーボール新人大会	県大会出場	男子(1回戦)
バスケットボール部	○全国高校総体バスケットボール大会福岡県予選	県大会出場	女子(1回戦)
野球部	○第105回全国高校野球選手権大会福岡県大会	県大会出場	(1回戦)
サッカー部	○全国高校総体サッカー大会福岡県予選	県大会出場	(1回戦)
バドミントン部	○福岡県高等学校総合体育大会バドミントン選手権大会	県大会出場	男子団体(2回戦)
卓球部	○全国高校総体卓球選手権大会	福岡県予選	女子個人(1名)(2回戦) 女子ダブルス(1回戦)
水泳部	○全国高校総体水泳競技選手権大会	福岡県予選	男子 50m自由形(1名) 7位
	◎全国高校総体水泳競技選手権大会	九州大会	男子 50m自由形(1名) 18位
	○福岡県水泳競技選手権新人大会		男子 50m自由形(1名) 1位
			男子100m自由形(1名) 5位
	◎全九州高校水泳競技選手権新人大会		男子 50m自由形(1名) 6位 男子100m自由形(1名) 13位

## 文化部

美術部	○福岡県高文連総合文化祭美術・工芸部門		奨励賞(4名)
囲碁・将棋部	○福岡県高文連総合文化祭将棋新人大会		男子の部 3位
吹奏楽部	○福岡県高文連総合文化祭吹奏楽部門	県大会出場	
	○第17回福岡県アンサンブルコンテスト	県大会出場	
放送部	○福岡県高校放送コンテスト	県大会出場	4名
	○福岡県高文祭放送コンテスト	県大会出場	1名
写真部	○福岡県高等学校総合文化祭写真部門	県入選	準特選(1名) 入選(5名)
文芸部	○福岡県高文連総合文化祭文芸部門	県大会出場	文芸部詩部門 優秀賞「葦」第64号



職名	氏名	担当教科
校長	白川 英治	
参事兼事務長	兒田 由美子	
教頭	橋本 典和	
教諭	吉浦 祐司	公民
教諭	竹下 斎明	数学
教諭	宮本 壘紀	保健体育
教諭	石井 直樹	国語
講師（常）	峯野 光善	外国語（英語）
講師（常）	河西 美奈	地理歴史
講師（常）	野村 広大	理科（化学）
講師（非）	二木 浩子	芸術（書道）
講師（非）	三田 美智代	家庭
講師（非）	山本 智美	情報
養護教諭（期）	寶田 早苗	
主任主事	出口 大輔	

## 定時制近況報告

はじめに、令和五年度の生徒の進路状況をご紹介します。令和五年度は、四年修了生十四名、三年修了生二名が卒業しました。十六名のうち、在学中の仕事を継続している生徒もいますが、卒業後の進路は進学が三名でした。

つぎに、令和五年度の主な活動をご紹介します。九月に行われた生活体験発表北九州地区大会に、本校から三年生二名が出場しました。二名ともに、これまでの自身の経験をふまえて発表し、奨励賞を受賞しました。

部活動のうち、文化部関係では、北九州芸術祭総合美術展書道部門において、三年生四名が入賞し、一名が特選となりました。また、行橋市人権啓発作品（書道の部）において、四年生一名が入選となりました。さらに、福岡県高等学校書道教育研究部会主催授業作品展では、三年生三名、二年生一名が優秀賞を受賞しました。

体育部関係では、福岡県高等学校定時制通信制体育大会夏季大会陸上競技大会において三年生一名が全国大会出場を果たしました。

本年度は、新入生十五名を迎え、全校生徒五十二名でスタートしています。生徒たちは、日々仕事に勉学に全力で励んでいます。

# 恩師からの おたより

## 「第二の母校 京都高校」

44回生 3年3組担任

執行 儒先生



京都高校第四十四回生を始めとする担当の皆様、常磐会総会の準備から当日のお世話まで本当にお疲れ様です。

さて、私は昭和六十三年四月に新規採用教員として福岡県に採用となり、京都高校に赴任いたしました。初めての地で、そして初めて教壇に

立つということもあり、慣れないことが多かったことを覚えています。

しかし、非常に明るく、まじめな生徒さん達と一緒に勉強でき、大変楽しかったです。特に、四十四回生は私が人生で初めて担任を務めた学年で、大変多くの思い出が残っています。初めて担任を持たせていただくことを伝えられた時は、本当に嬉しかったです。今でもその時の思いは覚えています。三年間持ち上がらせていただき、色々なことを経験させていただきましたが、その一つ一つがその後の教員人生に大きな影響を与えたことは、言うまでもありません。学校が変わっても、時がいくら過ぎても、いつも京都高校での経験が、私にとっては全ての基礎になりました。京都高校は私にとっては「第二の母校」です。

そんな私も今年で六十歳となり、教員生活もあとわずかとなりました。皆さんとの思い出や皆さんから学ばせていただいたことを今一度思い出して、最後まで頑張っ行ってこうと思います。

最後になりましたが、京都高校のますますの発展と、四十四回生を始めとする、卒業生の方々のご活躍を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

44回生 3年7組担任

烏田 幸雄先生



京都高校同窓生のみなさん、いかがお過ごしでしょうか。

初任者として赴任した京都高校から転出して、気がつけばもう30年近くが経過してしまいました。私は昨年定年を迎えはしたものの、それ以前とほとんど変わりなく仕事を続けています。元気なつもりではありませんが、さすがに体にはあちこち老朽化の波が押し寄せてきており、視力も低下、聴力も次第に劣化し始めてしまいました。かつて教室で私の授業を我慢強く聞いてくれた方々の、地域や社会と同じ職場で活躍する姿や様子が、私の老朽化した目や耳にこれこれと入ってくるようになり、世代交代の波が押し寄せてきていることをひしひしと感じる毎日です。

学校はこの30年で大きく様変わりしました。コロナ禍は教育のICT化を一気に推し進め、今やコン

ピュータなしでは学校の教育活動は難しくなっています。高校生にも一人一台のコンピュータ端末が配布され、小テストや教材資料はネットワーク上で実施や配布が行われるようになりました。調べ学習でも、YouTubeで動画資料に簡単にアクセスできる時代など、30年前に誰が想像できたでしょうか。日進月歩どころか、分進秒歩と言った方が適切だと思える急激な変化の中で、これから増えてくるデジタルネイティブ世代の同僚と肩を並べて仕事をすると、どこかの映画ではありませんが「生きて、抗え」とでも言うて自分を鼓舞しないといけないような気がしています。

最近、京都高校を訪れる機会が少々増えました。以前と外観こそ変わりますが、内部は様変わりしています。「京都の7不思議」などと噂された色々なスポットもすっかり様変わりして、その頃の面影はなく、きれいに整備されています（ちなみに、そのスポットができあがった原因のいくつかは、私は関わっていたのですが…）。うだるような暑さの中、汗だくになって、朦朧とした頭を振りながら踏ん張った夏課外や、寒さの中震えながら、使い捨てカイ

口を握って耐えた冬課外も、空調が導入されてもはや昔話、確実に学校もよりよい方向に進んでいると感じます。

時には大変だった過去を振り返って、よりよくなった今を見直してみる必要もあるでしょう。そうすることで、今よりもっと良い未来をつくり、次の世代に伝えることができるとは思います。久々に会う友人や先生方と昔の思い出を懐かしみながら、次の世代のためによりよい世界を考えたい。今回の同窓会がそんなきっかけになれば最高ではないでしょうか。

## 「44回生の皆さんへ」

44回生 3年8組担任

合屋 伸一 先生



常磐会総会・懇親会の開催おめでとうございます。

コロナ禍は、同窓会に限らず様々な行事について、改めて毎年続けていく意義や価値の再確認と、その再構築を我々に突き付けました。

同窓会を起点に確かめ合う同級生の横のつながり、それを縦につむいで過去と未来をつなぐ世代を超えた交流は、学校にとってもかけがえない財産です。

常磐会が同窓生相互のつながりをさらに深め、これからもその名(ever green)のごおり、京都高校の魅力の象徴としてあり続けることを心から願っています。

私は、平成元年4月から4年3月にかけて高校44回生の担任をさせていただきました。

44回生が入学してきた時は教員としての6年目をスタートしたばかりの27歳でしたが、今では60歳の定年を通過して、3人の子どもと4人の孫をもつ62歳になりました。

22歳で京都高校に赴任して始まり定年を迎えるまでの教員生活38年を振り返るとき、京都高校で生徒の皆さんとともに過ごした充実の日々は、生徒指導や進路指導、教科指導とすべてにおいて未熟だった私にとって、教員として・人としての大きな成長につながる密度の濃い最も貴重な8年だったということが出来ます。

30歳で地元である福岡に戻ってからも、おかげさまで素晴らしい上司や先輩、同僚、そして何よりエネルギーあふれる生徒達に恵まれ、母校である福岡高校で校長を務める機会までいただくなど、幸せな教員生活を送ることができたのも、京都高校での充実した日々があったからと心から感謝しています。

私自身は、このように恵まれた日々を過ごすことができましたが、ここ数十年の我が国を見ると、冒頭に書いたコロナ禍に加え、幾度となく大きな災害にも見舞われ、失われ

た30年ともいわれる経済の停滞など、決して良いことばかりではありませんでした。

変化のスピードと振幅がしだいに大きくなり、予測不能とまでいわれるまでになった社会では、どれだけ誠実に向き合っても思うように事が運ばないことの方が多いかもしれません。

それでも、44回生の皆さんは家庭や組織、社会の中核として考え、判断し、行動する主体であることが求められる年代の真つただ中にあります。

皆さんの、ますますのご活躍と豊かな人生を祈念して、節目ごとに幾度となく私に示唆を与えてくれた喜劇王チャールズ・チャップリンの有名な言葉で締めくくらせていただきます。

人生はクローズアップで見れば悲劇だが、ロングショットで見れば喜劇だ (Life is a tragedy when seen in close-up, but a comedy in long-shot)

57 回生 学年主任

松岡 孝先生



懐かしい伊藤先生、炭本先生からの、卒業生に向けた原稿依頼に困る。

君達が卒業して、もう二〇年になるのですね！地元で宮司をしたり、行橋市役所やみやこ町役場に勤めたり、地元の病院で医師、薬剤師、看護師として活躍していたり、近辺の学校に勤めたり、画家への道をまっしぐらに走っていたりするものもいます。皆、全国に散らばって、仕事に邁進している真つ最中、子育て奮闘中だと思います。渾沌とした世の中ですが、君達の力で切り開いていってください。あのときの君達が、いまどうなっているのか見てみたいなあ！

私は六〇歳で退職。フィリピンに渡り、「日本の高校で、優秀な教員でした！」と大学（フィリピンの大学は一六歳から）に売り込みに行き、数回の面接ののち、自習室兼パソコ

ン室みたいな所で、学生の相手をする機会を得ました。

数学の質問を受ける係ですが、中には「試験に何が出題されるか、ヤマをかけてくれ。」という学生もいて困りました。でも、ヤマをかけてやると見事に的中し、株を上げることでできました。そのほか、日本のアニメのこと、見合い結婚のことなどの質問もあり困惑したこともありました。

また、韓国からフィリピンへの留学生を相手にしていたとき、英語でどうやって説明したらいいかがわからず、日本語で独り言を言っているとき、「その言葉は韓国語の中にもあります！」とあって、共に感激したこともありました。

ある時、新聞の地方版に「一緒に山登りに行きませんか？」という募集がありました。その企画に応募したとき、同じグループに日系人らしき人がいました。その方は、顔は日本人でも、日本語はできませんでした。しかし、その叔父さんに会いに行くと、完璧な日本語を話されました。なんとその方は、日本の教育事情視察のため、伊良原小学校に二ヶ月間も行かれたことがあるということです。そしてその間、豊津にホーム

ステイしていたと！しかも、ホームステイ先は、京都高校で長年、英語教師をしておられた中村一男先生方という、ウソのような奇跡が起こりました！中村先生の奥さんは、私と h が豊津高校での同僚でした。親の面倒を見る必要から、二年間で中断しましたが、日本での三八年間の疲れが吹き飛ば、素晴らしい経験をフィリピンですることができました。

昨年、ひよんなことからオーストリアで二週間のドイツ語研修とホームステイをしました。ドイツ語の語学学校に通ったのですが、私の所属したクラスは、一八〜二二歳・四二歳そして七六歳の八人の若者ばかりです。出身は、フランス、スペイン、セルビア、マリ、ニッポンです。はじめの一週間は、NHKの語学講座のおかげで私が優等生でしたが、翌週は冠詞の使い方や動詞の変化などについていけなくなりました。先生に、「それ抜きで原形の単語を並べただけでもいいのではないかと質問すると、「文にならないのでダメ！」と一蹴され、ほかのみんなに抜かれていきました。

下宿で、シューベルトの「鱒」のことを話したら、翌日の夕食は、鱒

の塩焼きがでて感激！

そのようなこともあって、来週から再度ウィーンに行き、オーストリアからイタリアにかけてのそれほど高くない山をトレッキングします。ただし、今度は四人連れです。私以外の三人とも、ここ十数年一緒に山登りをしてきた仲間です。そのうち二人は若いときの教え子！

サウンド・オブ・ミュージックの舞台にも行く予定で、チロルの山を歩いたり、ドライブしたりして遊んできます！今回の旅を計画する上で、山小屋の予約については、日本の旅行会社では対応できませんでした。そこで、昨年ホームステイをした家の奥さんに事情を説明して依頼したところ、快諾してもらい完璧に予約をしてくれました。またまた感激！

他の三人のメンバーは、一人はインターネットが得意、もう一人は運転が得意、あとの一人は植物に詳しい、とそれぞれ持ち味を発揮してくれそうでワクワク！私は、ビール関係です。

君達とも、そういった機会を持ちたいね！今後、同窓会やクラス会を通して、親睦を深めていこう！

二〇二四年 七月五日（金）



57回生 3年5組担任

炭本 有恒 先生



常磐会総会の開催にあたり、57回生の担任として、一筆ご挨拶申し上げます。57回生は、私が担任をして2週目の学年ですね。私は、国語の担当ですが、2年、3年と理系のクラスを担当して、進路指導にもいろいろと苦労したような記憶があります。3年5組は、いろいろありましたね。筆舌に尽くしがたい経験をさせていただきました。振り返ってみれば、自分自身がまだ成長できていなかったなと思う点も多数あります。あの時はあの時で必死でしたね。今思えば、楽しかったと思えるような、楽しくはないけどもうちょっと余裕を持って対応できたかな、と思うような事がありました。いろいろありました。まだまだ私も若く、はらわた煮えくりかえるようなこともあったりしつつ、体当たりで教育活動に励んでいたと思いま

す。卒業生のみなさんは、どうされているでしょうか。私は行橋在住ですので、小学校の運動会で、卒業生に会ったり、買い物途中で、あいつ絶対そうよな、とか思ったりしつつ生活しています。途中何校か転勤をして、昨年度、京都高校に戻って参りました。生徒の気質は、変わったように感じますが、今だからこそ大きな目標を持って人生に前向きに取り組んでいくことができるように生徒とともに頑張っていきます。

機会がありましたら、思い出話でもできたらいいな、と思いますが、思い出したいくないことは、無理に思い出さなくてもいいかな、とも思っています。

なるべく、思いだしたいような良い思い出ができるように、卒業生のみなさんから学んだことを指導に生かしていきます。京都高校生を応援していただきますよう、心よりお願い申し上げます。

「六十九回生の皆さんへ」

69回生 学年主任

古島 敦子 先生



お元気ですか。三年間学年主任を務めた古島です。

入学して早々の英彦山での宿泊体験、二年次には修学旅行、一部の人だけでしたがSGHの海外研修、三年次には体育大会での応援合戦、文化祭での合唱コンクールなど行事がいろいろありましたね。三年の時は、ちょうど学校創立百周年で様々な記念行事がある中、皆さんはそれぞれの目標に向かって受験勉強を頑張っていました。私にとっては初めての学年主任でしたので手探りの毎日でしたが、学年の先生だけでなく、校長先生や教頭先生をはじめ多くの先生方と協力して、皆さんと向き合うことができました。皆さんも私たちの期待にしっかり応えてくれて、私の三十六年の教員生活の中でも特に思い出深い学年となりました。

あれから八年、もう社会人として活躍しているでしょうが、その間、新型コロナウイルス感染症の流行があつて大変な思いをしたことと思います。私はちょうどコロナの流行が始まった年に退職したので、半年間は家の片付けや庭の草取りばかりしていました。それから少しずつ動き出して今ではけっこう忙しくしています。

四十年間サボってばかりだった茶道に本腰を入れて、稽古したり勉強したりしています。月に十回は着物を着るのに着物は三十分で着られるようになりました。必要に迫られて二年前から書道を習っています。気に入っていたコーヒークップが割れたままになっていたので、福岡まで金継ぎを習いに行っています。友人に誘われて月に一度連歌の会に参加してみると、国語の教養がないので初めて聞く言葉がたくさん出てきて勉強になるし、五七五と七七を交互につないでいくのがスリリングでとても楽しいです。考えてみると、茶道、着物、書道、金継ぎ、連歌、どれも日本の伝統文化ですね。どうも私はそういうものが好きなようです。もう六十六歳だからあと何年元気でいられるかわかりませんが、この

歳になってもまだ新しい経験をして新しい知識を得ることができるといふのは、としてみ感じている今日この頃です。ちなみに、たまには数学の問題も解きます。

二十代の皆さんはまだ「あと何年？」なんて考えませんよね。私も二十代の頃はそうでした。でも月日の経つのは速いものです。日々、新しい経験をして新しい何かを感じ取って、他人と比べたりせず自分なりのペースで、人として成長していかせてください。

皆さんが充実した人生を送れますように。それは自分の考え次第ですよ。

## 「教え子と出会う」

### 思いつくこと

69 回生 3 年 3 組担任

青木 直剛 先生

69 回生のみなさん、お元気ですか？英語科の青木です。私は、みなさんが入学した平成 26 年に京都高校に赴任しました。そして、今年の四月に 10 年間勤めた京都高校から転勤して、現在は新しい高校で学んでいます。みなさんは、京都高校ではじめて 3 年間を一緒に過ごした学年なので、今でもたくさんの方が思い出に残っています。

69 回生は、心温かい生徒ばかりで、どんな場面でも楽しむパワーがありました。今でもたくさんの方のことを覚えていて。たとえば、1 年生のときは、冬季課外中の TOTO 研修の後、新棟の 1 年 2 組でクリスマス会をしたことを覚えています。2 年生のときは、修学旅行での最終日の夜のサプライズ誕生日パーティーのことが思い出されます。ホテルの大広間に学年集会の形で整理していて、今から叱られるかもという雰囲気の中、突然伊藤先生がバースデーソ

ングを歌いながら登場して、当日が誕生日の生徒たちを学年みんなで祝うという段取りでした。3 年生のときは、体育大会の応援合戦、そして合唱コンクールに向けてクラスごとにあちこちで練習していた姿がとても印象的です。受験直前の九月でしたが、どのクラスも本気で練習している姿が今でも心に残っています。私も京都高校の卒業生ですが、活気に満ちた 69 回生のみなさんのおかげで、とても懐かしく楽しい時間を過ごすことができました。本当に感謝しています。私は今でも京都高校の同級生には、いつもお世話になっています。みなさんも、69 回生の同級生をこれからもずっと大切に続けたいと思います。

ところで、私の京都高校での最後の 3 年間は、広報の仕事させていただきました。第 1 学区の中学校に行つて学校説明会をしたり、日々の学校生活の様子を毎週ホームページに載せたりしていました。中学校に説明会に行つた際には、現場で働いている 69 回生の瀬戸先生や久保先生が声をかけてくださいました。すでに教諭として立派に活躍されているお二人を拝見して元気な気持ちにな

りました。そのほかの 69 回生のみなさんも、それぞれの職場の若手としてきつと活躍されていることと思います。そして、京都高校のホームページには、私は転勤しましたが今でも後任の先生が学校の様子を毎週こまめにアップしてくださっていますので、みなさんも懐かしい気持ちになりたいたときや、元気になりたいときに見てもらえたら幸いです。ときどき京都高校での 3 年間を思い出して、それぞれの職場でさらに活躍されることを願っています。また、お会いできるのを楽しみにしています。



# 卒業生からの おたより

## 女性 男性共に存分に生きる

高女30回生 品川 洋子

催の連絡がありました。

その日、五月二十二日、朝日新聞の夕刊に、次のことが出ていました。

「東大に女性 なぜ少ない？」

学生は二割、教授は一割」

かねて女性の進路や社会的活動に、男性との隔たりが大きいと言われてきました。戦後、八十年にもなるというのにです。「建前は男女平等」としながら「現実には男性優位社会」という状態が続いてきました。しかし、最近これを強く指摘し、大きく改善することになってきています。

私は旧学制を出てから新学制に移り、これまで女性に門戸を閉ざしていた大学に男女共学の一期生として入学し、卒業して教職に就きました。大学一期生として男女の真の平等への自覚を持っていました。公立中学校長など学校管理職、母校大学講師、私立女子大教授などを六十年間、続けました。

その中で女性も校長、教頭など学校管理職に就けることから、私はごく初期に就きました。

その後も女性の学校管理職はごくわずかで容易に増えず、周囲は私より年齢の上の男性がほとんどで、女

性は私一人かごく少数という状態が続きました。

その間、男女平等は進むはずでしたが、中学校教頭、校長など学校管理職を二十二年間続ける間、周囲の状況はほとんど変わりませんでした。

その中で、私は頭を上げて、するだけのことをすると決めて続けました。

そこで、区切りごとにして来た事実を教育論文にして確実に発表し、遺してきました。



『ひらく 校長として女性として』（平成十五年 中央公論事業出版）を「事実の記録」として、五冊目を公刊しました。

さらに九十歳になる時、「事実を記す」だけでなく、「今後のあり方への期待、願い等」を今後のために記さなければと思い立ちました。

『つなぐ 女性の中学校長から』（令和六年 同出版刊）を公刊しました。これが六冊目です。

「ひらく」から「つなぐ」ことに真の意義があると思っています。

『つなぐ』は今年の一月刊で、京都高校にもお届けしました。

京都高校は、女学校からの伝統は勿論、高校で女性男性にかかわらず存分に生きる力を付けていると思っています。女性に「ガラスの天井」などあるか無いかは本人の力次第です。勇気をもって進んで欲しいと思っています。

教育の分野だけでなく、広く女性、男性とも伸びやかに活動できる社会が本場の社会です。

これから男性、女性ともに存分に生きられる社会、「真の男女共同参画社会」の実現を期待しています。

そして公立中学校長を定年退職する時、これまで自分がしてきた「事実を確実に記すこと」を思い立ち、本を出すことにしました。

「京都」と「常磐」という優雅で寿ぎの名の学校、同窓会。先に創立百周年記念を祝って、ますます松の緑のように力強く進展していますこと、お慶びしています。

私たち高女三十回生は、在校四年のほぼ前半が戦中、後半が戦後で、卒業するとすぐ女学校は終了になりました。新制の高等学校になると、活力ある学校として松の緑のように盛んで、同窓会活動も活発で、高女卒業生として喜んでいきます。

今年も同窓会幹事の方から、会開







# 「卒業32年経って」

高校44回生 原田 力

令和6年度常磐会総会実行委員の皆様、総会及び総会誌への御尽力、ありがとうございます。そして御苦勞様でした。

現在、苜田町で原田皮フ科医院を開業しております、原田と申します。タイトルにもありますが、京都高校を卒業してから、もう32年も経ち、年齢も50歳と半世紀となっていることにいまさらながら驚いているところです。

京都高校に入学したときは昭和から改元したばかりの平成元年でした。自宅から自転車で京都高校の合格発表の掲示板に行ったのを覚えていています。それから無事入学させて頂き、1年生の担任は烏田幸雄先生、2年及び3年生の担任は合屋伸一先生でした。当時は、まだ週休1日制でしたので、授業が課外授業を含めると土曜日も4時間目までであり、3年生の時は6時間目まであったと記憶しています。とにかく「数宿」「英宿」をはじめ、多々の宿題に日々追われていたような気がしません。

部活はサッカー部に所属し、顧問は吉田武彦先生でした。どの部活もそうだと思いますが、ほぼ毎日練習でした。課外授業が終わった後から部活が始まるため、日が落ちて暗くなりボールが見えなくなるまで練習したり、時には照明を点灯しながらの練習となったりしていました。夏休み中には合宿もあり、午前、午後と練習をした後、校舎の教室内にゴザを敷いて寝泊まりしていた思い出があります。そのため、帰宅してから、宿題をしようと思っても睡魔によく負けていたため、母親に何度も起こされていました。

課外を含めた授業や部活のおかげで、とにかく休みがあまりなかったように思いますが、それでも何とか3年間京都高校に通い、無事に卒業できました。

卒業した翌年に何とか大学に合格したのですが、その後の大学生活も確かに授業や実習、試験などいろいろ大変でした。しかしながら、高校生活に比べたら、まだそこまででもなかったような気がします。それぐらい、僕の中の高校生活は印象深い3年間でした。

その後、無事大学を卒業し、医師として第一歩を踏み出したのです

が、そこから毎日医師としての仕事、そして研鑽の日々を重ねてきました。そしてその日々は父から継承した当院の医師として、現在も継続中です。

地元で仕事をしているため、時々京都高校の生徒も患者さんで来院することもあります。その時は、卒業32年も経っていますが、少しかけ（勝手に）先輩風を吹かせて診療することがあつたりします。卒業生という経歴をコミュニケーションツールとして首尾よく利用させて頂いています。

一般的に、仕事というものは、それを成し遂げるために紆余曲折はつきもので、いいことも悪いこともあり、一筋縄ではいかないことも多々あると思います。当然、医師の仕事もそうであります。しかし、僕自身、今までのこの仕事をやめようと思ったことはありません。当然大変だったり、しんどかったりしたことも多々ありましたが、何とか乗り越えられてきたのは、振り返ると、今までの様々な経験がある中で京都高校での3年間の経験が一翼を担っていたと感じています。今後さらさら経験に積み重ねていくことで、自分のできる限りではありますが、地域医療に

貢献していきたいと思っております。このような機会を頂き、誠にありがとうございます。京都高校及び常磐会の今後の益々のご発展を祈念し、最後までさせて頂きます。



貢献していきたくと思っています。このような機会を頂き、誠にありがとうございます。京都高校及び常磐会の今後の益々のご発展を祈念し、最後までさせて頂きます。

## 「高校時代の 経験と現在」

高校57回生 二見真紀人

この度は2024年度常磐会総会の開催、誠におめでとございます。開催を迎えられましたのは44回生を中心とした実行委員の皆様のおかげであり、大変ご多忙の中ご尽力いただき誠にありがとうございます。

今回、微力ながら常磐会総会の開催準備に携わらせていただき、このように執筆の機会をいただきましたので、高校生活から現在に至るまでを振り返らせていただきたいと思います。

私にとつての京都高校3年間は部活(バスケットボール部)一色の生活でした。そもそもバスケットを始めようになつたきっかけは、中学1年生のときに軟式テニス部の入部希望者が多かったために友人からバスケット部に誘われたことでした。当時はあまりバスケットを知らず、流っていた漫画(スラムダンク)も読んだことがありますでした。そこからどんどんバスケットの魅力に取り憑かれ、気づけば大学生活までの12年間、また働き出した現在も(趣



味程度ではありませんが)バスケットをすることになるとは思ってもいませんでした。

特に高校時代は熱心な指導者と様々な中学校から上手な選手が集まっていたこともあり、とても刺激的でとても充実した日々を過ごすことができました。朝練に没頭して授業に遅刻したり、みんなでお互いに坊主頭にしたり、念願の県大会に出場できたり、思い返せばきりがありませぬ。チームメイトがいたからこそ練習を乗り越えることができましたし、その先に得られる達成感があることを教えていただきました。バスケットは相手よりもたくさん点数を取るスポーツです。しかし一人

でたくさん点を取ることは難しくチームワーク、チームプレーがとても重要です。高校生活が充実していたのは、とてもいいチームメイトに恵まれたからだと思っております。

現在、医師として勤務していますが、医療の現場でもチームワークが非常に重要です。受診された患者さんを診察、診断し、処方を行うのは医師の仕事ですが、医師の目線だけでは十分な医療を提供することはできません。急速に進行する高齢化社会において、患者さんの多くは併存疾患を有しており教科書通りの治療ではうまくいかないことをしばしば経験します。例えば高血圧、糖尿病などの生活習慣病は、患者さんの生活習慣や服薬状況、身体的・精神的ストレスなどが密接に関与しているからです。そのため、患者さんや患者さんの家族を中心に医師、看護師、薬剤師、理学療法士、ソーシャルワーカーなど多職種によるチーム医療が重要になります。

高校時代の恩師が「物事は実は繋がっていることが多い。だからその時は分からなくても一生懸命取り組むことが大事なんだ。」と仰っていました。当時は理解ができませんでしたが、今振り返ると高校時代のバ

スケットの経験が今の仕事に繋がっていると感じます。今は分からなくても一生懸命取り組むことがきっと将来の自分の糧になると思います。最後になりますが、京都高校、常磐会の益々の発展を祈願し結びの言葉とさせていただきます。

## 「京都高校

### 同窓会にあたり」

高校69回生 久保 奨己



この度、同窓会総会が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

このような執筆の機会をいただき、大変光栄なことだと感じております。

この執筆にあたり、京都高校を卒業し、約7年も年月が経っていることに気づかされ、高校生活を振り返ってみました。

京都高校の毎日は、朝課外や7限授業、多大なる宿題で勉強に追われる日々でした。また、朝6時半からの整備から始まり、20時完全下校のギリギリまで行われる部活動。かなりハードな毎日で1年生の時には転入や学校をやめることも考えました。しかし、味方でいてくれた家族、友人、先生方のおかげで卒業でき、社会人として生活できていると思

ます。

特に印象に残っている思い出としては、二つあります。1つ目は、部活動です。私は野球部に所属していました。正直、野球をするために京都高校に通っていたといっても過言ではないくらいの「野球バカ」でした。ただ、野球を順風満帆にやれた3年間ではなかったです。新チームが始まり、ここからスタメンを目指して頑張ろうと思った夏の練習試合

のとき、打席で腰に激痛が走り、走ることも出来なかったことがあります。しかし、何とか家に帰り、寝たら治るだろうと思っていました。しかし、次の日、目を覚ましましたが、再びの激痛により起き上がることができず、涙したことがあります。そこから全治3か月のコルセット生活で休部をしました。腰は治ることはなく、痛みと付き合っていく高校野球生活。2年生の秋には、大スランプになり、スタメンで夏を迎えることができなかったです。しかし、学んだことがあるのは確かです。それは「努力は裏切らない」ということです。腰痛で休部した際には、野球の勉強のために、高校野球九州大会を見に行きました。そのおかげで誰よりも野球を知ることができ、プ

レーにも生かせることができたからです。また、秋のスランプに陥った際にも、自主練習だけは欠かさず、夏まで過ごしました。全体練習が終わり、みんなが帰っていく中、グラウンドに残り、後輩の協力のもと練習を変える日々を過ごしていました。夏の大会では、代打で出場し、センター前ヒットを打つことができました。たの努力のおかげだと思えます。

もう一つの思い出としては、体育大会です。緑団応援団長として、団が一丸となって行った応援合戦や雨の中行った体育大会で閉会式後に水たまりに向かって、ヘッドスライディングをしたことが今でも頭の中に浮かんできます。京都高校生らしくないと先輩方に言われればそれまでなのですが、たくさん楽しい思い出を作らせていただいた京都高校には感謝しかありません。

私は、いま京築地区内の中学校で保健体育教諭をしています。今年3年生担任をしていて、毎日生徒と楽しく過ごさせてもらっており、中学3年生に私が京都高校と伝えると「うそや〜」っていつも言われます。でもそれがいつも可愛くて仕方ないです。進路の話になり、京都高校の話になります。「京都つて

正直きつくはないですか」つてよく言われます。そんな生徒には「確かにきつかったけど、それ以上に楽しい思い出が多いから、先生は京都で良かったよ」と伝えていきます。最後になりますが、このようなご縁をいただいた京都高校並びに常磐会の益々のご発展をお祈り、結びの言葉とさせていただきます。





# 思い出アルバム

## 44回生









# 思い出アルバム

57 回生









# 思い出アルバム

## 69 回生







2024年度 常磐会総会

# 協力回生のつどい

日時 2024年6月29日(土) 18時～

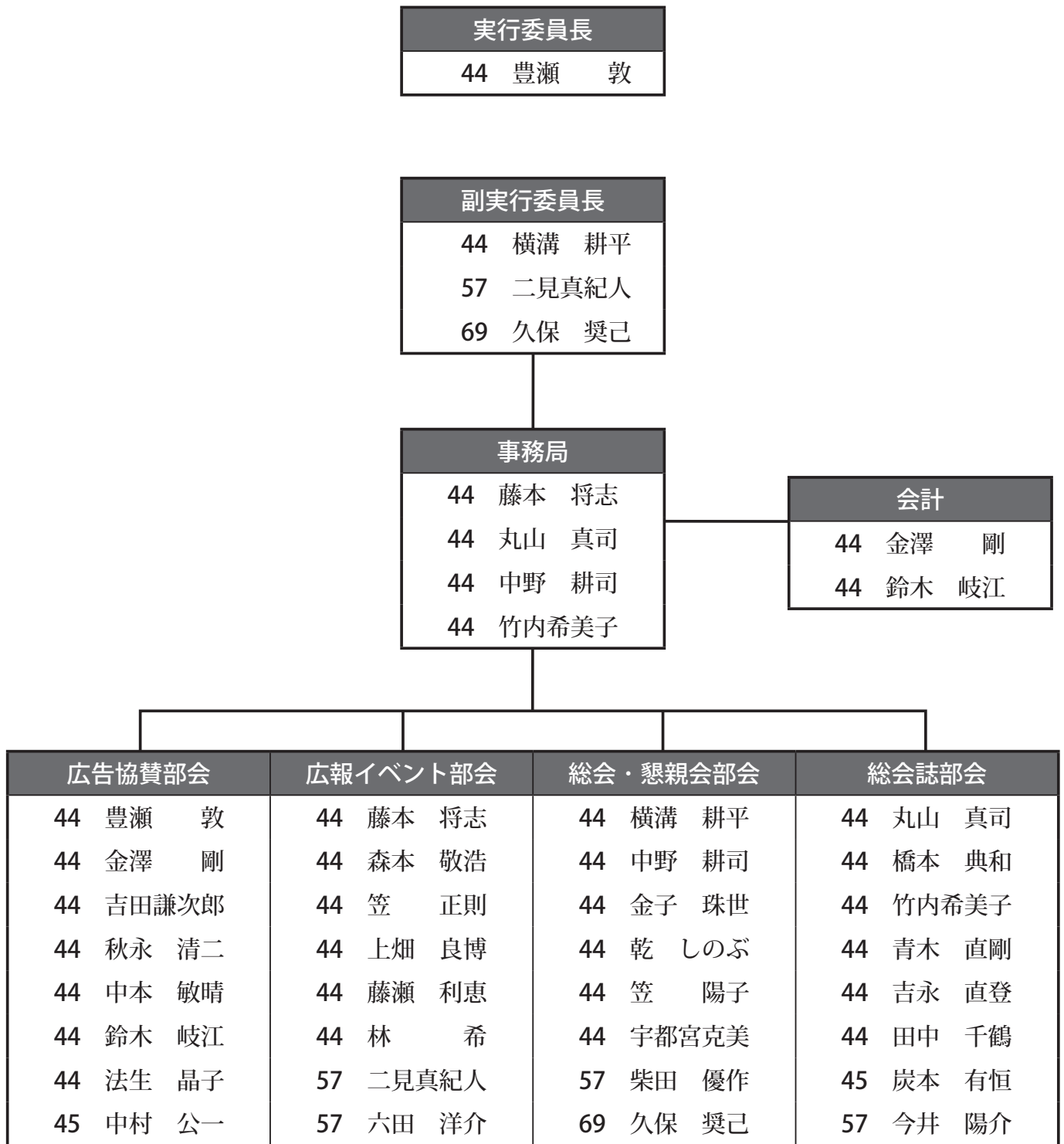
会場 みやこホテル (行橋市)

ご参加くださった皆様ありがとうございました









※数字は回生



## 「記録からよみがえる

## 思い出」

## 44回生 中本 敏晴

「えーっ?!村上F（福弘）先生、今年定年なん?」

「生物」担当の村上先生が退職される平成3年3月、当時高校2年生だった私ですが、その事実を知った同年3月上旬、「定年を迎える先生は、最後の授業ってどんな話するんだろうか?」と考えているうち、家にはカセットテープの小型録音機（ウォークマン）があった事を思い出し、カセットテープに授業の様子を録音することにしました。そして3月19日に村上先生からの最後の授業を録音し、家に帰ってから、きちんとテープに録音できたかどうか一度全部再生してチェックした後は、一度もそのテープを聞くことはありませんでした。何故なら、私が次にそのテープを聞くのは、村上先生と再会した時だと決めていたからです。しかし、そんな思いをしていたにもかかわらず、卒業後、村上先生の家に

行くことはありませんでした。自分の事を忘れられていたらどうしようという思いからでした。

そして、録音から33年の月日が経ち、京都高校の常磐会総会の実行委員となり、学生当時の写真などを集めている最中、村上先生の授業を録音した事を思い出し、実家に保管してあったテープを久しぶりに聞きました。先生は、「君たちは、僕たちに比べてよ、異常な神経を使いようと思うよ。（1日）8時間も授業があるし。」と仰っていて、その後も私達の将来について案じる思いを述べられ、本当に生徒思いの先生だったんだなと思わず泣きそうになりました。また、先生は、昭和6年生まれで、青春期を戦中戦後の混乱期に過ごし、戦中戦後に食べ物が思うようになかった時代で苦労された話もされてきました。今の学校では、戦後生まれの先生しかいらつしやらないので、私達は本当に貴重な授業を受けていたんだなと思いました。

テープを聞いた数日後、「先生が退職されて33年。ご健在ならば93歳……とりあえず連絡してみよう!」と思ひ、先生の連絡先を調べて電話すると先生の奥様が電話に出られました。先生の様子を伺うと、平成18年

に既にお亡くなりになられたとの事でした。先生の奥様に、先生の授業を録音したテープを差し上げたい旨を伝えると、先生の奥様から電話口で何度も「ありがとうございます」と感謝の気持ちを言われ、勇気をもって連絡して良かったと思いました。早速、ダビングしたテープを郵送しようと思ったのですが、同じ実行委員の乾（旧姓…瀧）さんから「テープを持って行ってあげるのがいいと思う。」との提案を受け、同級生4人（乾、森本、林（旧姓…加藤）、笠）と私で村上先生宅へテープを持って訪問し、先生の奥様と御親族から温かく迎えられました。早速、先生の奥様と御親族の方に録音したものを聞かせると、久しぶりに聞く先生の声を懐かしんでいました。

村上先生と一緒に授業のテープを聞くことは叶わず残念でしたが、先生の奥様と聞くことができ、感激しました。今回、ご協力いただきました先生の奥様と御親族の方に感謝申し上げます。また、この企画を手伝ってくれた実行委員のみんな、本当にありがとうございます!

そして、村上福弘先生、本当にありがとうございました。



## 「常磐会の世代を繋ぐ」

## イラストたち

## 44回生 中本 敏晴

今年の総会会場や総会誌等はこちらで使っているイラスト。実はこのイラストにはこんな歴史の点と44回生の線があつたのです。

ある日、私の職場の携帯に見知らぬ着信履歴が。「総会の実行委員になつてくれないか？生徒会長だったんだしさ。」職場の携帯まで追い掛けてきた旧友の熱意に絆され、総会の実行委員を引き受けてしまいました。

まず豊前方面の協賛広告担当となり、皆様の協力のおかげで順調に集金をしていたのですが、いつも気がかりだったのが先輩から引き継いだ協賛広告実績リストの何故か黒く塗られた謎の広告主。「危険人物？この30回生はやめたほうが」と広告部会長に諮ったところ、だめだめ一人残らず電話してと命令が下り、恐る恐る連絡をしたところ、寄付は勿論多くの30回生の男女を集め、44回生と懇親の場を持つて、私たちをねぎらい、14年

前の総会「蒼き季節君と夢みし」の経験から助言を戴くことになってしまいました。

またこの方は、資料の中のピンボケ写真のフルートを吹く女生徒に恋してしまい、こんな学校だったら人生もこう変わったかもな…と連作で手作りイラストを製作し、それが30回生の実行委員全員の心にささり総会実行に向け団結力が高まったとか。

「決して良い事ばかりではなかった人生の春の季節に戻れるなら、帰りたい過去を試し、行きたい未来を創りたい。残る人生を生き足りる為に必要な愛情や友情を求めたい。」そんな願いをこめ、生き生きと描き込まれた高校・高女の生徒達のイラスト作品たち。見る程に私はこれらの作品の虜になり、一方実話として「フルート越しに恋心をもった二人は卒業という希望の光に目がくらんで『数十年の長いすれ違い』が始まる。」というイラストの設定を読んだ高等女学校の先輩が30回生の元を涙ながらに訪れ、「この二人は数十年すれ違つた後どうなるの」と御質問なさつたと聞き、「私は常磐会の44回生、本年度総会当番として、卒業後すれ違つたままの2人を、このままにしてはならない。二人の人生を新作イラストで幸

福に完結させる責任がある。」と感じました。

## 30回生44回生共同製作「ハ長調のカノン」篇イラストの設定

二人は卒業後、努力を重ねて、彼女はピアニストとなり、彼は商社マンとしてアメリカで活躍をするのですが、50歳になる今年、彼はハッヘルベルの「カノン」をフルートで吹けるよう練習をして常磐会総会の実行委員としてやつて来ます。

「1回だけ、カノンのデュエットをしてくれないか。まだ初心者で、シャープの音が出せないからシャープの無いハ長調で、なんだけどね。」

彼女は、「私があの時練習していた『カノン』を覚えていてくれてんだ。」と、ときめきをこらえながら、「喜んで」と後ろ手に「ハ長調ね。」とコードC「ドミソ」の鍵盤を押さえます。その場にいた実行委員の旧友達は、「ここは邪魔してはいけない」と固唾を呑んで見守っています。

数十年いや30回生から今日44回生に至るまで、すれ違つたままだった2人は、今回の総会で1日だけ、1曲だけの特別なセッションを果たすと同時に、自分の周りに家族や友人がいる幸せを思い出し、再び未来に向けて踏み出すことが出来ました。

そんな設定を籠めた30回生44回生共同制作のイラスト「ハ長調のカノン」篇の完成を、豊瀬実行委員長の御指名で30回生と一番関わった私が紹介することとなりました。御協力いただいた30回生の皆さん、ありがとうございました。

今回総会実行委員の活動を通して同級生と再会を果たしましたが、卒業してから32年の時を感じさせない、まるで卒業が「昨日」のことのように感じるくらい、みんなとあの頃に戻つて和気あいあいとした楽しい時間を過ごすことができました。また他の回生ともお話をする機会に恵まれ、総会の準備は色々大変だったけれど、自分にとって楽しく貴重な体験をしました。

これからの人生、再び会つた同級生をはじめ、総会実行活動で知己を得た全ての方々と共に歩んでいくことが楽しみになりました。

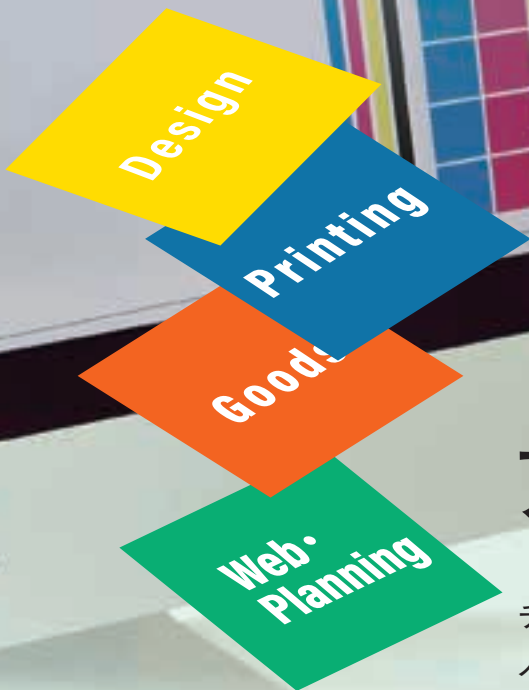




## 2024年度 常磐会総会誌

発行日 2024年9月3日  
発行 2024年度  
常磐会総会実行委員会  
印刷 有限会社 京都印刷





# アイデアを形に。

チラシ・ポスター・名刺・カレンダー  
ノベルティグッズなどのトータルデザインと印刷

各種伝票・封筒・冊子等事務用印刷

Web・イベント企画・プランニング

取締役会長 **蓑干博文** (高校18回生)



おかげさまでもうすぐ創業100年  
有限会社 **京都印刷**

〒824-0005 福岡県行橋市中央3丁目3-10

日本一の印刷屋さん

検索

TEL 0930-22-0319  
FAX 0930-22-0429





福岡県立京都高等学女学校同窓会



福岡県立京都高等学女学校同窓会

当番回生 平成4年卒業 44回生・定時30回生 平成17年卒業57回生・平成29年卒業69回生